



# にじのはし幼稚園 園だより

平成26年 12月号  
港区立にじのはし幼稚園  
園長 新井智子



真心こめて

園長 新井智子

今年も、幼稚園内が「にじっこ作品展」として素敵なギャラリーに変身しました。みんなの部屋は、5歳児の「にじのはシーパラダイス」のテーマパークがダイナミックに展開しています。毎日の遊びの中で、各学年がそれぞれの発達にふさわしい製作活動に取り組み、試したり工夫したりしながら、思い思いの表現を楽しみました。

文部科学省では、幼稚園の製作や表現活動に関する指導内容の記述を「かく」「つくる」と平仮名にしています。「作る 描く(もしくは書く)」としない理由は、工作や描画のような活動だけではなく、幼児が素材や用具に触れて心地よい感触を味わうことや、遊びの中で偶然できたこと、言葉や動きで補いながらの素朴な表現なども、製作遊びとして大事にしているからです。

ところで、つくったりかいたりする日々の中で、目にしてきた姿があります。学年に関わらず、子どもたちが、自分の分身のように作品を抱きしめ、持ち歩き、人に見せ語りかけている姿です。3歳児は、ドングリと紙粘土でつくった「たからもの」を手のひらに乗せて持ち歩き、4歳児は、空き箱でつくった動物をマリオネットのように動かして遊び、5歳児は、カラービニルで工夫した海の生き物を胸に抱きしめていました。「壊れないようにここに飾って置こうね」という教師の目を盗んで、そっと持ち出して廊下の椅子に座って見つめている子を多く見かけました。いつも自分のそばに置きたい気持ちなのでしょう。時には、思い通りにならず苦勞をしてつくったり、少し壊れて悲しくなったりしながら、一生懸命つくったのです。作品に愛着が生まれ、大切に扱う気持ちが芽生えていくのは当然のことでしょう。思いをこめてつくる、つくりながら思いが膨らむ、その真心がこもった作品が生まれる時をじっくりと紡いでいくのが幼稚園なのです。

今日、コンピュータの進化によって、様々な表現方法が可能になり、複雑な画像処理や加工が自由に施されるようになりました。また、3Dプリンターで立体物をあっという間に作成することもできるようになりました。創作の可能性は広がり、容易に表現できる方法をきつと瞬く間に子どもたちはマスターしていくでしょう。

だからこそ、今は、じっくりと時間と思いと手をかけてシンプルにつくることを子どもたちに体験させたいのです。

さて、日本には前述のように思いをこめた「つくる、かく」を表す言葉があります。「したためる」「こしらえる」「あつらえる」「しつらえる」などです。どの言葉も温かくゆとりと気持ちが込められた言葉のように感じます。12月は、新年に向かう月でもあります。年賀状をしたためる、新年にふさわしくあつらえる、ごちそうをこしらえるなど、私も、子どもたちに習って、作る、書くに思いをこめてみたいと思います。

どの学年もこころを  
こめてつくりました

